



JAPANESE / JAPONAIS / JAPONÉS A1

Standard Level / Niveau Moyen (Option Moyenne) / Nivel Medio

Thursday 13 May 1999 (afternoon)/Jeudi 13 mai 1999 (après-midi)/Jueves 13 de mayo de 1999 (tarde)

Paper / Épreuve / Prueba 1

3h

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

Do NOT open this examination paper until instructed to do so.

This paper consists of two sections, Section A and Section B.

Answer BOTH Section A AND Section B.

Section A: Write a commentary on ONE passage. Include in your commentary answers to ALL the questions set.

Section B: Answer ONE essay question. Refer mainly to works studied in Part 3 (Groups of Works); references to other works are permissible but must not form the main body of your answer.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

NE PAS OUVRIR cette épreuve avant d'y être autorisé.

Cette épreuve comporte deux sections, la Section A et la Section B.

Répondre ET à la Section A ET à la Section B.

Section A: Écrire un commentaire sur UN passage. Votre commentaire doit traiter TOUTES les questions posées.

Section B: Traiter UN sujet de composition. Se référer principalement aux œuvres étudiées dans la troisième partie (Groupes d'œuvres); les références à d'autres œuvres sont permises mais ne doivent pas constituer l'essentiel de la réponse.

INSTRUCCIONES PARA LOS CANDIDATOS

NO ABRA esta prueba hasta que se lo autoricen.

En esta prueba hay dos secciones: la Sección A y la Sección B.

Conteste las dos secciones, A y B.

Sección A: Escriba un comentario sobre UNO de los fragmentos. Debe incluir en su comentario respuestas a TODAS las preguntas de orientación.

Sección B: Elija UN tema de redacción. Su respuesta debe centrarse principalmente en las obras estudiadas para la Parte 3 (Grupos de obras); se permiten referencias a otras obras siempre que no formen la parte principal de la respuesta.

第一部

次のⅠ(a)の文章とⅠ(b)の詩のうち、どちらか一つを選んで解説しなさい。

(コメンタリーを書きなさい。)

Ⅰ(a)

ある日。

「おたく、いまおヒマ？」と、〇氏から電話がかかってきた。〇氏は旧い友達、映画雑誌を一人でやっている。〇氏の仕事、手伝う。夕方まで一区切りついて終わり。

「いやいや今日はすっかり御苦労さん。お世話になったから御馳走したい。ちょっとおいしいすきやきあるの。御馳走したい」と言ってくれる。あまりお金を持っていない〇氏なので、いいえ、いいんですと遠慮したが、「やっぱりね、人間、ちゃんとしっかり食べと
5
かなくちゃ」などと、なおも言ってくれるので、それでは、と恐縮しつつ、すきやきなんてスゴいな、わるいな、と丸窓のはまったお座敷を頭に浮かべながら、アンモニアの匂いとインクの匂いの混む風通しのよくないガード下に沿った通りを随いて行く。

しっかり食べる……これがお腹の大手術をしてこのかた、入退院を毎年のようにくり返している单身者〇氏の生活の基盤だ。しっかり食べて体重をふやして風が吹いてもよろよろし
10
ない体を保とうとしている。

席巻屋に古切手屋、タイプライター屋、絵具製造所、どもりを治す精神肉体強化研究所などが並んだ先、敗戦後の外食券食堂のような店の硝子引戸をあけて入った。

一人前五百円のすきやきなのであった。チャーシューメンと同じ値段の珍しい安さに驚くと同時に、ほっとしたような、当然のような、つまらないような気がした。しかし、食べ
15
はじめたら五百円のすきやきは具の量が派手あって、甘くてくどくて、ちゃんとお腹がいっぱいになるように工夫がこらしてあるのだった。〇氏は常連らしく、手ぎわよくテーブルをまわってガスの火を調節している平たい丸顔のおかみさんから、センセイとよばれていた。

〇氏は、「人間ちゃんとしっかりと食べとかなくちゃ」をくり返し、ひっきりなしに鍋の中をかきまわしては、黒くなるほど煮え寝えている肉を、自分の分までせつせとくれたり、嘔
20
がれ声を張り上げて卵のお代りを頼んでくれたりするので、私は十二分のもてなしをうけているな、と満足した。

しばらく人と会う機会がなく、ネコとだけ口をきいていたという〇氏は、頭の中に押し合
25
いへし合い浮遊してくるものに勝手気ままにとびのり、勝手にとび移り、あれもこれもと、せつかにしゃべりはじめた。

「昨日はさ。四本立ピンリ(映画)のうち、二本観て出てきた。そう、新橋のガード下の。こ
30
れがとても面白かった。どうしてそんなに面白かったか、家へ帰ってずっと考えてみた。結局よく考えてみたら、俺って何にも女のこと知らなかったんだよね。俺って少年みたいなんだよね」

「いまごろ気がついたの」

「そお」おそろしく真面目な顔をして際々と待く。もう手遅れではないだろうか、それに自
35
分で自分のこと少年みたいだなんて、よく言えるなあ、私はそのように思ったが黙っていた。

国際映画祭や最近見た映画の話になったら、〇氏の眼は輝やいてきた。傾けたもふくらんできた。この人は、ほんとに「映画の子」だな、つくづく私は感心した。テーブルの縁を

「そお！」と平手で叩き、「そこなのよね。それ、誰かが言わなくちゃね。それ言ってもらいたいんだなあ」と、人なつこい笑い顔をして大仰な相槌を打つ。「自分で言えば、映画評論家なんだから」と言う、ジロリと眠つきが変り、「そんなこと言っただって体力が落ちてるしね。カラダがね！」と、気に入らぬことを言われてイヤだと思ったときの怖い顔になった。

酒類は次の日猛烈に腹が痛くなるんだ、と言いながら少し飲むと、注射したみたいに、ぐんぐんぐんと元気になってきた。そうして自分と自分の死んだ母親と自分の飼っているネコ以外のものを片っぱしから真目読みした。するとあんまりしゃべり過ぎたためか、急に低血糖におちいり（〇氏は自分でそう言い、いそいでポケットから用意の甘飴飴を出してしゃぶった）、ぐんぐんぐんと体力がなくなってきた。俺って世間のこと何にも知らないで生きてきたんだなあ。いまになって気がついたよ」と、じつと眼をつぶって寝た。

威張っていたかと思うと妙に謙遜してみせたりして、止めどなくなったらだと〇氏はしゃべり続けた。いま食べたいものの話、老齢年金の話、洋服と靴の話、中目黒の座布団売春の話、また映画の話、——そうして、その合間合間には、久しぶりに人と会えてこんなに沢山しゃべれた嬉しさがこみ上げてくるらしく、鍋をかきまわすお箸を握ったまま、伸びあがって店内を見わたしながら、「今日ハウレシイナア」と、シンから嬉しそうな言い方で何度も声を張り上げるので、まわりの客たちはその度にびっくりして、こっちを見た。

御馳走様でした、と立ち上り、二足三足歩きだすと、相当大きな平べったい物体が倒れる音が背後でした。ビニールの丸椅子もろとも、〇氏が仰向けに床に転がっていた。一瞬、ああ、こうして〇さんは死んでしまうのだ、と思った。だが、しょっちゅう、こんな風になるらしい〇氏は、いっこうに平気で、「今日はありがとうね」と、転がったまま人なつこい笑った顔で拳手の礼をしたので、私は〇氏の表現力の見事さに、十二分を通り越すもてなしをうけたと感動した。

（武田百合子『日日雑記』）

（注）

武田百合子（一九二五―一九三）『富士日記』『犬が屋見た』などの作品がある。

低血糖 糖尿病治療のためのインシュリンの投与で人によって頭痛めまい等の症状が起きることがある。応急処置として砂糖や甘い菓子を取る必要がある。

― 筆者は〇氏の人となり、どのような点に着目して、描いていますか。

― この文章に書かれた〇氏の人間像には矛盾する点があるでしょうか。

― 筆者の表現の仕方にはどのような特色がありますか。

― この文章の文体について説明しなさい。

1 (b)

水畔行

急いでいた		夕方、家に戻った	
その日の約束に向かって		心に大量の水を灌えて	
一途な思いが折れた		行き先を問われて	
坂道の途中で		水を見てきた、と答えた	
川の水が見たい、と思った	5	妻は、顔を寄せて、微笑んだ	25
気まぐれに歩いて		違約の人にも、正直に	
川に急いだ		水を見に行ってしまうて	
水辺に立つと		と電話で謝る	
水の端が		怒りもしないが	
ゆっくりと動いていた	10	笑いもしない、それだけ	30
水に近付きたい		寝床で、目を瞑ると	
身を屈めても		胸の中を大量の水が	
近付きたりない		足元に向かって	
水面に顔を寄せて		ゆっくりと流れて行く	
川面を見渡す	15	そのまま眠った	35
大量の水が移動していた		(鈴木志郎康「遠い人の声に振り向く」)	
こんなにも水がある			
計りようもない			
視野に収めた			
その視野の水	20		

(注)

鈴木志郎康 (一九三五-) 詩人・映像作家。

水畔 川のほとり

- ― 作者はなぜ違約してまで「川の水が見たい」と思ったのでしょうか。
- ― 妻や違約された人の反応が共に静かなのはどうしてでしょうか。
- ― 自分の胸の中を大量の水が流れていくとは、どのような状態を表現していますか。
- ― この詩の文体の特徴を述べなさい。

第二部

授業で学習した部門(Part 3)から、(a)(b)の問題のうち一つを選んで、エッセイを書きなさい。エッセイを書くにあたっては、必ずPart 3で学習した文学作品三つのうち二つに言及すること。なお、この二作品のほか、他の作品について述べてもよい。

2. 美の探求

- (a) 「“あはれ”とは、美しいものがまさに滅びようとするときに生じる感情である」と言う人がいますが、あなたはどのように考えますか。

あるいは

- (b) 「醜さの中に美を見いだすことは、詩人の仕事である」とハーディは述べていますが、詩人を物語などの作者あるいは小説家に置き換えて、この意見があてはまるかどうか、あなたの読んだ作品を例にあげて論じなさい。

3. 社会と個人

- (a) あなたの読んだ作品において、「社会はなぜ人間を抑圧するか」という問題は、どのように扱われていますか。あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品において、「人間としての尊厳」はどのようなものとして描かれていますか。あなたの考えるところを述べなさい。

4. 自然と人生

- (a) あなたの読んだ作品では、「自然」はどのようなものとして作者（詩人）に認識されていますか。あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品では、都市と田園、あるいは旅とふるさとの関係はどのように描かれていますか。例をあげて、あなたの考えるところを述べなさい。

5. 家族

- (a) あなたの読んだ小説において、「家」はどのような意味を持っていますか。あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品においては、どのような家族が描かれ、それを通してどのような人生が描かれていますか。

6. 愛と友情

- (a) あなたの読んだ作品には、恋愛や友情の描き方にどのような特徴がありますか。例をあげて、あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) 恋愛や友情をテーマとする作品の人物像は、時代や社会の変化とともに変わっていくという人がいます。あなたの意見を述べなさい。